

適正配置計画等に位置付けられた学校数の検証について － 検証ポイント 通学に関する状況等 －

2019. 11. 27

1 議論のポイント

宮代町立小中学校の適正配置に関する基本方針（平成 27 年 8 月：宮代町教育委員会）及び宮代町立小中学校適正配置計画（平成 28 年 3 月：宮代町）では、将来の小学校及び中学校数について、次のように位置付けています。

① 小学校

基本方針：適正規模・適正配置の方針として「3 校」が適正

適正配置計画：「3 校」を基本に多機能化・複合化を検討

② 中学校

基本方針：適正規模・適正配置の方針として「1 校」が適正

適正配置基本計画：「1 校」へ再編・統合

以上が現行計画等の位置付けであります。これまでの本審議会での意見交換から、特に中学校を 1 校へ再編・統合するとの現行計画等について、検証が必要だと考えています。

中学校 1 校とする場合、検証するためのポイントがいくつかあると考えますが、前回実施した意識調査においても、通学の状況に関する意識が高く、この点からの検証は不可欠です。

2 通学条件の変化について

適正配置計画において、「実現に向けて」として、以下のように記述されています。

中学校 3 校の生徒数は今後「減少」「偏在化」が見込まれるところであり、公教育として宮代町の生徒が均しく教育を享受できるよう、そして教育予算を集中し、効果的に活用できるよう、まず中学校の再編・統合を進めます。

この場合の配置について、中学校では遠距離通学者に対する自転車利用が認められていますが、著しい通学距離の延伸は生徒の負担増につながるため、これに対応する配置は極力町の中央部であることが望ましいといえます。合わせて、通学路の検証を行い交通、防犯上の安全対策にも努めるものとします。

そこで、今回の審議会での議論に向け、事務局では、上記の計画を踏まえ、通学距離や交通状況等を把握するための実証実験を実施しました。結果は、**別添 1**のとおりです。

2-1 実証結果の概要等

① 条件設定等

- ・町の「中央部」の想定場所として、笠原小学校とした。
- ・スタート地点は、最も通学距離が遠くなると思われる大字国納地区の久喜市との境付近、宇宮東地区の成就院幼稚園前とした。
- ・当日の天候は晴れ。自転車は、時速 14 キロから 15 キロで走行した。

・スタート時間は、朝の通学時間帯に近い時間帯とし、交通量などの状況把握に努めた。

② 実施結果

A 大字国納地区（地番776付近）からのルート

i 実証ルート等について

- ・笠原小学校までの距離は、6.87 km。信号及び踏切待ちも含む走行時間は、32分。
- ・スタート地点から町道を直進し、ぐるる宮代方面に向かった。その後も町道を通行し、西方院付近から県道春日部久喜線を和戸駅方面に。和戸駅までは、3.2 kmほど。時間は、約13分。
- ・駅からは線路沿いを進み、和戸駅南側の踏み切りを右折。須賀小中学校の校庭横の町道を直進し、東条原の交差点へ向かう。さらに日本工業大学を左に見ながら町道を直進し、本田保育園、公設医療センター六花前を通過し、笠原小学校へ。
- ・ちなみに、スタート地点から、須賀中学校までの距離は、約3.5 km。

ii 通学上の安全性について

- ・県道は、一定の交通量がある。一部自転車通行可の歩道が整備されている。
- ・町道部分については、交通量は少ないが、歩道は整備されていない区間が多い。
- ・水田等農地が連続するぐるる宮代から圏央道付近や東条原地内は、住宅が少なくなる。

B 字宮東地区（地番899付近）からのルート

i 実証ルート等について

- ・笠原小学校までの距離は、3.76 km。信号待ちも含む走行時間は、17分。
- ・町道を成就院幼稚園から字中島地区の若宮集会所方面へ向かい、中島交差点で県道を横断した。中島交差点までは2 kmほど。約10分。
- ・その後、みやしろ地下道を通行。道仏地区で右折し、道仏集会所前を通り百間中学校校門前へ。ここまで3 kmほど。
- ・百間中学校からは、JA宮代支店の前を通り、駅前通りから笠原小学校へ。

ii 通学上の安全性について

- ・みやしろ地下道からカスミ付近まで県道を走行するが、自転車通行可の歩道が整備されている。国納地区からのルートと同様に、町道部分については、交通量が少なく、歩道については未整備区間が多い。
- ・経路上、極端に住宅が少なくなる箇所はなかった。

3 他の市町の状況

通学距離等の状況を把握するため、事務局では、杉戸町と白岡市の状況を調査しました。比較については、別添2のとおりです。

① 概況等

白岡市は、白岡中学校の学区エリアの一部地域において、スクールバスを運営していません。白岡中学校の一部地域は、通学距離が7 km以上と遠距離となること、また、交通量

の多い国道 122 号線や県道さいたま栗橋線の横断箇所があるため、安全性確保という面もあるようです。なお、白岡市は、中学校であっても全て、自転車通学は不可となっています。

杉戸町は、最も遠い通学距離の概算として 4.9 km とのことです。スクールバスは運行していません。

なお、白岡市及び杉戸町ともに、過去 3 年間における通学時の大きな交通事故は発生していないとのこと。

② 適正配置の検討状況について

杉戸町は、学校の適正配置を今後していくとの話がありました。一方、白岡市では、現在のところ学校の適正配置の検討の予定はないとのこと。

4 現行計画等の通学に関する検証の視点

① 中学校の位置については、現行計画において、町の中央部が望ましいとの記述がありますが、計画には具体的な場所は示されていません。

ただ、学校数を 1 とした場合は、町内全域の中学生が通学することになるため、現状よりも通学距離が遠くなるエリアが発生します。

今回は、笠原小学校を目的地としましたが、久喜市との境界付近の大字国納地区からは 6.87 km (32 分)、桃山台付近からでも 5 km 超となります。また宮東地区からは、3.76 km (17 分) となりました。

中学校の設置場所が、笠原小学校より北側か南側かで、双方からの距離は変動します。

→**視点 1: 通学距離及び通学時間の妥当性の範囲をどう考えるか。また、通学手段についてどう考えるか。**

② 実証実験した範囲では、交通量はそれほど多くないと感じました。大字国納地区からの実証実験では、県道春日部久喜線を走行しました。県道の交通量は、町道に比べると多くはなっています。

防犯面で考えると、通行した経路において、住宅の少ないエリアもありました。

ただ、道路事情や住宅が少ないエリアに関しては、現状においても同様であり、学校の再配置によって、状況が極端に悪化するわけではないと考えています。

→**視点 2: 現状等も踏まえ、交通安全面及び防犯面についてどう考えるか。**

③ 白岡市と杉戸町の通学区域や現状等では、通学距離については、当町よりも遠距離にある状況があることが分かりました。また、杉戸町でも適正配置についての検討を行う予定があることが分かりました。

→**視点 3: 周辺の市町との状況も踏まえ、現行計画等を実行した場合の当町の通学に関してどう考えるか。**

以上、3 つの視点を中心に、本審議会として、通学に関する課題等について検証をお願いします。